

ダッシュユカの強化が これからの課題

世界選出場で一流のレベルを知る

今年5月26〜30日、オーストラリア・メルボルンで行われた世界トラック選手権に、内田慶選手はナショナルチームのメンバーとともに出場した。この世界選手権はアテネオリンピックの出場枠を獲得する最後のチャンスで

ある。内田選手は「4km個人追抜」と「スクラッチ」に出場、それぞれ15位、11位で予選敗退。残念ながらオリンピック出場はならなかった。

「世界の一流選手のスピードを肌で感じる事ができたり、アテネの次の北京オリンピックは狙いますよ。世界の大会に立った経験は今後の競輪に生

きてくるし、生かしたいですね」

内田選手は2002年8月にプロデビュー。翌03年4月、地元宇都宮競輪場で行われた「87回生ルーキーチャンピオンレース・若驚賞」で優勝、一躍87期の星と脚光を浴びた。しかし、03年12月、S級特進がかかる「レインボーカップファイナルステージ」の初日

で落車、背中を痛めてしまった。

「整体で矯正してもらって、3月末頃から調子が戻ってきましたね」

4〜5月は3場所連続優勝。この間、自転車競技でも4月のアジア自転車選手権と5月の全日本プロ選手権の4km個人追抜で優勝。

内田選手は小学2年生からトライアスロンを始め、小中学生の頃はジュニア大会で何度も優勝している。父・孝さんは「私が慶にトライアスロンを勧め、私も一緒に始めたのですが、慶にすぐ抜かれましたね」と笑う。

高校は神山雄一郎選手の母校である作新学院（栃木）に進学、中距離とロードの選手として活躍した。

宇都宮の朝練で力をつける

現在、内田選手は宇都宮競輪場近くのマンションに一人暮らし。

「食事は一時、ナショナルチームの栄養士の指導を受けて、自分で作っていましたけど、今は選手仲間と定食屋などで食べる人が多いですね。みんな



内田 慶 選手

S級2班・87期・23歳・栃木県



お父さんのパソコンには慶選手のデビュー以来の全レースのデータが動画付きで入っている。



5月26日、オーストラリア・メルボルンで行われた世界選手権の「個人追抜」に出場した内田選手。15位で予選を通過できなかったが、得たものは大きかった。



で食べたほうが楽しいですから。結婚ですか？ ぼくは縛られるのは好きじゃないし、まだまだ先です。」

内田選手の1日は朝6時半からのバンク練習が始まる。「この1時間ほどの朝練は宇都宮地区の恒例となっていて、S級選手はほとんどが顔をしますね。この朝練で、ぼくはすいぶん力がついた感じがします。」

朝練が終わると、そのまま午前中いっぱいバンク練習という日もあれば、那須の山の方へ往復80キロの街道練習に出る日もある。地脚タイプだけにスタミナには自信がある。課題はタッシユカとスピードの強化である。1日の練習の締めくくりは、夕方からのウエーントレーニング。

「バンク練習では軽いギアで走ってみたり、あえて後方につけて、前団を一

気に捲る練習なんかも取り入れていますが、このところスピードにも手応えを感じています。」

昨年9月のチャレンジ・ザ・オリンピックの1kmタイムトライアルで、1位の矢口啓一郎選手1分4秒626に對して、6位1分5秒677であった。

「スピード練習を積めば、4秒台、3秒台も出ると思うし、自転車競技では今後は1kmにもチャレンジしてみたい」と意欲的だ。

貴重な神山選手のアドバイス

デビューして、この7月で丸2年になる。

「2年間を闘ってみて、レースに向けて調子をどうつくっていくか、そんなことが少しわかってきたところです」

戦法は先行。連対時の決まり手を見ても逃げが72・7%である。

「ぼくは脚質

からいって先行向きだし、練習仲間からも先行のほうがいい走りをしているといわれます。ただ、強引に逃げて、結果が9着ではファンに申し訳ないし、いい着をとれるようにペース配分とか、仕掛けのタイミングとかは考えないといけないですね」

宇都宮には神

S級2班で活躍する87期の選手たち

この8月にプロデビュー3年目を迎える87期75名は新制度導入後の初の競輪学校卒業生で、02年4月に二層制導入でB級が廃止されたことに伴い、同年8月にA級3班の初格付けでスタートした最初の選手たちである。

87期の選手は他期別の選手たちと比べても前評判や素質の高い有望選手数に遜色はなかったのだが、昨年12月20日若津裕介選手(岡山)が特進を決めたのは別に前期(1~6月)の初S級昇級者が10名と少なく、一部のファンからは期全体のレベルは谷間の世代かといわれた。しかしこの7月1日から始まった平成16年後期の今期は新たに8名が初のS級2班に昇級、S級2班在籍者が17名となり87期の底力を遅ればせながら証明してみせた。今後のS級初優勝一番乗りやS級1班への先陣争いを注目したい。

平成16年後期 87期S級2班選手(17名)一覧

選手名	年齢	府県	前期級班	競輪学校順位	脚質	前期成績		
						勝率	2連対率	3連対率
1 荒木 伸哉	25歳	静岡	S2	1位	両	25.0	31.8	43.1
2 五十嵐 力	25歳	神奈	S2	31位	逃	17.2	34.4	48.2
3 岩津 裕介	22歳	岡山	S2	37位	両	19.4	38.8	44.4
4 梶山 裕次郎	23歳	福岡	S2	19位	逃	26.3	34.2	39.4
5 坂西 佑介	23歳	千葉	S2	24位	逃	3.4	10.3	10.3
6 平原 康多	22歳	埼玉	S2	8位	逃	20.5	41.0	51.2
7 藤川 浩平	26歳	石川	S2	17位	逃	2.0	8.3	14.5
8 松岡 健介	26歳	兵庫	S2	11位	両	5.4	18.9	32.4
9 柳谷 崇	26歳	岡山	S2	13位	両	4.8	14.6	29.2
10 和田 健太郎	23歳	千葉	S2	29位	逃	8.8	29.4	38.2
11 青森 伸也	27歳	福島	A1	40位	逃	21.2	39.3	48.4
12 石渡 正也	22歳	茨城	A1	22位	逃	41.9	61.2	67.7
13 内田 慶	23歳	栃木	A1	14位	逃	25.9	40.7	48.1
14 片山 直人	22歳	福岡	A1	58位	逃	23.0	51.2	58.9
15 近藤 俊明	25歳	神奈	A1	44位	逃	35.8	48.7	64.1
16 齋藤 正国	21歳	栃木	A1	34位	逃	22.2	33.3	52.7
17 長尾 博幸	24歳	滋賀	A1	32位	逃	31.5	47.3	57.8

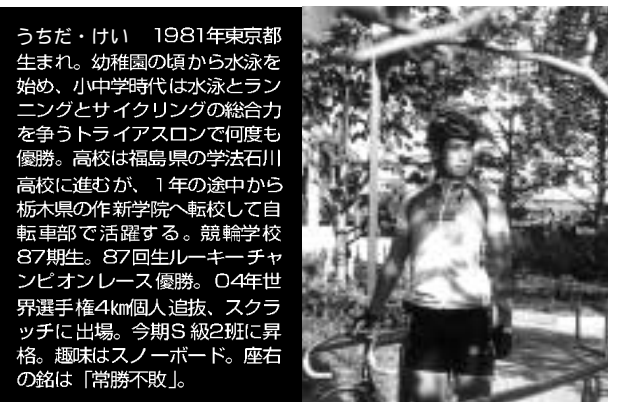
印=7月1日昇級選手。データは02年6月30日現在。

山雄一郎選手という願ってもないお手本がある。

「神山さんからは、『おれが内田の年齢の頃はこんな練習をした』などと、ときどきアドバイスやヒントをもらっていますし、ぼくからもなるべく質問をするようにしています。とにかく練習に対する姿勢一つをとっても、学ぶことがいっぱいある偉大な先輩です」

同期では、荒木伸哉、平原康多、五十嵐力選手などがすでにS級で活躍、一歩遅れを取った格好だが、内田選手も今年7月からS級2班に昇格した。

「荒木選手とは伊豆の競輪学校でよく合宿するし、同期とはみんな仲がいいんですよ。でも、レースとなると話は別。S級へ先を越されたときは悔しかったですし、その悔しい分、練習もしたつもりです。その練習の成果をS級レースにぶつけたいですね」



うちだ・けい 1981年東京都生まれ。幼稚園の頃から水泳を始め、小中学時代は水泳とランニングとサイクリングの総合力を争うトライアスロンで何度も優勝。高校は福島県の学法石川高校に進むが、1年の途中から栃木県の作新学院へ転校して自転車部で活躍する。競輪学校87期生。87回生ルーキーチャンピオンレース優勝。04年世界選手権4km個人追抜、スクラッチに出場。今期S級2班に昇格。趣味はスノーボード。座右の銘は「常勝不敗」。

内田選手は7月22、25日の寛仁親王牌に出場の予定だ。S級でどんなレースを見せてくれるのか楽しみである。

両親の住む埼玉県富士見市のマンションの庭園で撮影。